

》 3 日頃の備え 運営者編

01 避難所における3つの備え

避難所にはペット同行避難者が来ます。過去の災害においては、避難所におけるペットの取扱いが十分に想定されていなかったことで、飼い主と一緒に避難してきたペットをめぐって、臭いや鳴き声などによる様々なトラブルが発生しました。

飼育スペース

受入れの条件

飼育ルール

なるべくトラブルを少なくしよう

を決めておくことで、避難所のペットに関わるトラブルは減少します。

様々な方が避難してくるなか、ペットの同行避難者を受入れ、対応することになるため、事前に備えておくことが大切です。

広い飼育スペースが設置できないのですが、どうしたらいいですか？

様々な形態の避難所がある中で、一律の対応は難しいかと思います。各施設において、検討を進めるにあたって様々な課題が出てきます。

飼育スペースに限らず、避難所ごとにできることやできないことなどをあらかじめ整理し、対応策を考えていくことが準備の第1歩です。

02 飼育スペースの検討

ペットを飼育していない方との動線ができるだけ交わらない

避難所では動物にアレルギーのある方や、鳴き声などの騒音、糞尿などの臭いに配慮し、人の居住スペースと動物の飼育スペースを区分することが原則です。

※スペースに余裕がある場合は、飼い主と同じ居住スペースで生活すること（同伴避難）も検討可能ですが、他の避難者への影響や衛生管理などを考慮し、対応するようにしましょう。

暑さや寒さ、雨風の影響を受けにくい場所

ペットの健康影響を考え、飼育スペースは、直射日光を防ぎ、雨風をしのげる場所を検討しましょう。屋外に飼育スペースを設ける場合は、屋根やひさしがあり、ブルーシートなどで雨風がしのげる場所を検討しましょう。

駐輪場

倉庫

ひさし

避難所運営活動（物資運搬など）の妨げとならない場所

避難所への人の往来や車両の出入りの妨げとならない場所を検討しましょう。

清掃しやすい場所

清潔にすることで避難者のペットに対する印象もよくなります。

人とペットは
区別するニャン

